

【研究課題】

切除可能肝細胞癌に対する術前肝動注化学療法（HAIC）の有用性の検討

【はじめに】

肝細胞癌の治療法は、手術による切除術やラジオ波による焼灼術などに代表される局所療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE: transarterial chemoembolization）や動注リザーバーを用いた肝動注療法、そして分子標的治療薬を用いた全身の化学療法など多岐にわたります。どの治療法を選択するかは、患者さんの年齢や肝機能、がんの個数、大きさや場所などを考慮して判断されます。

肝機能が良好でがんの個数が少なく、大きさが小さい段階で見つかった肝細胞癌の患者さんの治療としては、手術による切除術がもっとも根治性の高い治療とされています。しかし、その中には手術後の早い段階で肝臓の中にがんが再発して再度治療が必要となる患者さんが存在します。

【研究概要・目的】

我々はこれまで、術後早い段階でがんが再発する可能性のある患者さんに対し、手術後の再発を予防するために手術前に肝動注化学療法を行ってきました。ただし、その治療成績について評価する必要がありますので、今までに治療を行った患者さんの背景因子・治療効果・予後等を解析し、今後の治療に生かしたいと考えています。

【研究対象】

公立八女総合病院消化器内科・外科において 2000 年 1 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日までに肝細胞癌の診断で肝切除術を受けられた方が対象です。

【研究方法】

患者さんのカルテを閲覧させて頂き、背景・治療効果・予後等の必要な項目のみを抽出させて頂き、解析に使用させて頂きます。この研究を行うことで患者さんに余分な負担が生じることはありません。

【研究期間】

研究を行う期間は2013年1月1日より2018年12月31日までの5年間です。

【医学上の貢献】

本研究の対象となった患者さんが直接受ける利益はございませんが、この研究成果によっては肝細胞癌疾患に対する新たな治療法の1つとなり得、多くの患者さんの治療に貢献できる可能性があります。

【個人情報の保護と管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、公立八女総合病院においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者へ個人情報が漏れないように十分配慮しております。

また、今回得られた結果は学会や論文として医学雑誌に発表させて頂くことがあります。患者さんを特定できる情報は一切含まれることはなく、患者さんのプライバシーの保護には十分配慮致します。

【本研究への参加】

この研究の妥当性は当院倫理委員会の承認が得られています。本研究では個々の患者さんに対して同意を取得することは致しませんが、データを利用することに同意を頂けない方は以下の問い合わせ先もしくは主治医にご連絡ください。その際はデータを削除致します。たとえご同意を頂けない場合であっても患者さんに対して最善の治療を行いますので患者さんが不利益を受けることは決してありません。ただしすでに研究結果が論文等に公表されている場合にはその結果は訂正できませんのでその際はご了承ください。

【問い合わせ先】

公立八女総合病院 肝臓内科 永松 洋明
〒834-0034 福岡県八女市高塚 540-2
Tel : 0943-23-4131